

鳴門教育大学附属幼稚園

学校関係者評価報告書

(平成22年度)

平成23年3月

学校関係者評価委員会

## 目 次

学校関係者評価委員会が実施した学校評価について	1
I 学校関係者評価結果	3
II 評価項目ごとの評価	5
1 教育課程・指導	5
2 保健管理	5
3 安全管理	5
4 特別支援教育	6
5 組織運営	6
6 研修（資質向上の取組）	6
7 学校評価	7
8 情報提供	7
9 保護者・地域住民との連携	7
10 子育て支援	8
11 教育環境整備	8
12 教育実習	9
13 センターの役割	9
参考：学校の現況及び目的	10

# 学校関係者評価委員会が実施した学校評価について

## はじめに

本報告書は、学校評議員、大学教員、附属学校部会の組織体として連関する附属小学校の前校長、保護者等の学校関係者で構成された鳴門教育大学附属幼稚園学校関係者評価委員会が、附属幼稚園の教育・研究活動の観察及び園長をはじめとする教職員との意見交換等を通じて、同園の自己評価結果について概評することを基本に学校関係者評価を実施し、その結果を取りまとめたものである。

## 1 評価の目的

学校評価は、次の3つを目的として実施するものである。

- ① 学校が、自らの教育活動その他の学校運営について目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ② 学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者・地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③ 学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

## 2 評価のスケジュール

平成 22 年 6 月 第 1 回学校関係者評価委員会（委員長を選出、評価項目ごとの評価担当者の決定、今後の予定等）

平成 22 年 9 月 学校関係者評価委員による施設見学、保育・園行事の参観及び教職員  
～ 23 年 3 月 との意見交換（ペアレンツセミナー、運動会、園外保育、幼児教育研究会、表現会等）

平成 23 年 2 月 第 2 回学校関係者評価委員会（自己評価結果及び改善方策等に関する説明を受けての学校関係者評価の実施と評価報告書の作成等）

### 3 学校関係者評価委員会委員（平成23年3月現在）

赤澤ミユキ：鳴門教育大学附属幼稚園学校評議員・元徳島市立幼稚園長

大宮 俊恵：徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部准教授  
前鳴門教育大学附属小学校校長

木下 光二：鳴門教育大学大学院准教授

○ 田村 隆宏：鳴門教育大学大学院教授

福森 知治：鳴門教育大学附属幼稚園みどり会会長

徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部講師

（50音順，○は委員長）

### 4 本評価報告書の内容

#### (1) 「Ⅰ 学校関係者評価結果」

「Ⅰ 学校関係者評価結果」では、「Ⅱ 評価項目ごとの評価」において、評価項目1から13のすべての評価項目の内容を総合的に判断し、4段階評価で記述した。

{ 4段階評価の基準 }

A 十分達成されている

B 達成されている

C 取り組まれているが、成果が十分でない

D 取組が不十分である

また、学校の目的に照らして、「主な優れた点」、「主な改善を要する点」を抽出し、上記結果と併記した。

#### (2) 「Ⅱ 評価項目ごとの評価」

「Ⅱ 評価項目ごとの評価」では、評価項目1から13において、当該評価項目が達成されているかどうかの「評価結果」（4段階評価）及びその「評価結果の根拠・理由」を記述した。加えて、取組が優れていると判断した場合や、改善の必要があると判断した場合には、それらを「優れた点」及び「改善を要する点」として、それぞれの評価項目ごとに併記した。

#### (3) 「参考」

「参考」では、自己評価書に掲載されている「Ⅰ学校の現況及び目的」を転載した。

### 5 本評価報告書の公表

本報告書は、鳴門教育大学に提供するとともに、設置者に提出する。また、ウェブページ（<http://www.kinsch.naruto-u.ac.jp>）への掲載を通じて、広く社会に公表する。

## I 学校関係者評価結果

鳴門教育大学附属幼稚園の学校関係者評価は内容を総合し、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断する。

主な優れた点について、以下に列挙する。

- 「1 教育課程・指導」において、幼稚園教育要領改訂の構想を具現化した「生活プラン」に基づいて、保育環境を豊かな学びをもたらす財として捉え、子どもにより深い学びをもたらす保育者の関わりや環境整備とはどのようなものであるかを思索できるデータベース（遊誘財データベース）を構築し、その成果を「研究紀要第44集」にまとめ、さらに来年度以後もキーセンテンスの精選及びデータの更新等へ志向している点は極めて優れた取り組みであると判断できる。
- 「2 保健管理」において、経験豊かな養護教諭を中心として、感染症等に対して速やか、かつ適切に対応がとれるための学校保健計画が綿密に策定されており、保健管理体制については万全である点は優れている。
- 「6 研修（資質向上の取り組み）」において、研究幼稚園としての使命を帯びて競争的研究資金としての科学研究費補助金獲得に多くの教員が申請を行うとともに、各教員が県内外の多数の研修行事等に精力的に参画し、各教員が積極的に資質向上に努めている。
- 「10 子育て支援」において、夏期保育、あいあいサポート、よるトークの開催等、保護者との一体感を高揚させる様々な取り組みが実施されている。
- 「13 センターの役割」において、従来からの研究幼稚園・奉仕幼稚園として、全幼研徳島支部の事務局を本園において支部の研修を企画運営（学習会、総会、理事会）しているのをはじめとして、教育講演会の開催、教員の県内外研修会への講演講師の派遣（阿波市幼教研・板野郡幼教研・共同園内研など）、及び月2、3回の頻度で午前中は保育参観、午後には合同研究会を公開で開催しているなど、極めて優れた取り組みが実施されている。さらに遊誘財データベースをweb化し、その成果を共有化する試みは保育の質の向上に多大な貢献を果たす取り組みとして注目できる。

主な改善を要する点について、以下に列挙する。

- 「5 組織運営」における今年度の教育支援教員の加配にのみに留まらず、専任教頭制等に移行するための教員定数・配置の見直し等、より適正な組織の責任体制の編成に関する再検討が必要である。
- 「6 研修（資質向上の取り組み）」における週休日に行われる研修等への振替日を保証するための教員定数増の要求等、安定した勤務体制の編成に関する再検討が必要である。
- 「8 情報提供」における情報管理の強化を目途としたウェブページの現作成者等を園長の管理下に置くための教員定数増の要求等、管理体制の編成に関する再検討が必要である。

- 「11 教育環境整備」における安全対策を企図した、エアコンの設置やボイラー・重油タンクの撤去等と共に、現園舎の早期全面改修等に関する概算要求の提示が必要である。
- 「12 教育実習」における変形労働時間制による 1 日 10 時間勤務をなお超過する現況を是正するための教員定数増の要求等，教職員の過剰負担の軽減に関する再検討が必要である。
- 「13 センターの役割」における講師として派遣する教員の勤務時間調整を可能にするための教員定数増の要求等，安定した勤務体制の編成に関する再検討が必要である。

## II 評価項目ごとの評価

### 評価項目1 教育課程・指導

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点1 年間の指導計画や週案などの作成はできているか

教育課程に基づく具体的なねらいや内容、環境の構成、教師の援助などの指導細目及び方法等を著した「生活プラン」に基づき、それを本年度に見合った形に見直しつつ、年間の指導計画や週案が綿密に作成されており、さらに子ども一人一人の育ちを詳細に記録し、それを踏まえて日々の保育実践構築に結びつけられている点で極めて優れた取り組みであると判断される。

### 評価項目2 保健管理

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点2 保健計画が改定されているか

保健に関する指導計画を毎月見直し、幼児の実態に応じた健康診断についての工夫や、月ごとにかかりやすい疾病の予防などについて計画が立てられ、それに沿って保健管理や保健指導を実施されていることから、十分に達成されていると判断された。

### 評価項目3 安全管理

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

#### 観点3 安全点検や教職員の安全対応能力の向上を図るための取り組み状況

「平成22年度安全管理計画－危機管理マニュアル」(別添資料3-①)が作成され、それに基づき計画的に安全管理が実施されている。また、毎月の学校安全の日に教職員が2人組で園内の安全点検を実施したり、全教職員が附属小学校の教職員とともに救急法の講習会に参加するなど、安全管理に関しては積極的に取り組まれている。

#### 評価項目 4 特別支援教育

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点4 家庭との連携状況

日常的に担任やコーディネーターから保護者に対して、機会をとらえて、できるだけ密に連絡を取り合い、特別支援教育コーディネーターによる研修も実施されている。さらに幼稚園・小学校の連携を密にし、鳴門教育大学特別支援教育コースとも連携を図り、支援の必要な幼児には保護者の協力を得て支援ノートを作成するなどのきめ細やかな対応がなされている。

#### 評価項目 5 組織運営

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点5 園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制が整備されているか

研究部・教育実習部・教務部の3部に編成した運営体制が組織され、3主任を責任者として配置され、それを部内教頭・園長が統括するという園務分掌が定められている。

昨年度は週26時間と週30時間の非常勤講師各1名及びフルタイムの教育支援教員1名であったが、今年度より週30時間の非常勤講師2名とフルタイムの教育支援教員が1名配置され、園務分掌の見直しが図られている。

ただし、園の業務内容はますます肥大化しており、定められた勤務時間の範囲内での遂行は非常に難しく、教職員定数増の要求等によって改善される必要があるものの、教員定数増加の実現については設置者側の改善課題であり、本園の教職員の努力の範囲外である。

#### 評価項目 6 研修（資質向上の取組）

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

##### 観点6 園内研修や園外研修の実施及び参加ができているか

園内研修では、「保育の質的充実を目指して - 遊誘財データベースの構築に向けて -」という研究主題に関する事例研究や保育カンファレンスを園内研究会あるいは園外各校種の教員の参加を得て合同研究会として定期的に行っているほか、保育技術のスキル向上のためのピアノレッスン、バドミントン、リズム表現、阿波踊りなどの多岐にわたる領域



の研鑽を積んでいる。さらに、資料6-③「出張一覧」に記載されているような多彩な研修により、幼年発達支援のための専門的理解の深化に努めている。

## 評価項目7 学校評価

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点7 学校関係者評価の実施システムが運用されているか

昨年度に引き続き、幼稚園の現況及び目的や平成22年度の重点目標や計画の設定、評価項目の設定、学校関係者評価員委嘱、学校関係者評価委員会開催、重点目標を十分考慮した教育活動の実施、学校関係者評価委員に対する幼稚園教育活動の公開、自己評価書の作成と学校関係者評価委員会での報告ならびに評価の実施等、段階的なシステムを策定し、評価体制の確立に努めている。殊に優れた点として、資料7-②、資料7-③に示されているように、評価委員会評価のみに留まらず年間を通じて、各種の来園者に対して積極的なアンケートの実施とその解析をしており、真摯な取り組みを継続している。

## 評価項目8 情報提供

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点8 情報提供の活用はされているか

ウェブページは、幼稚園らしいフォルムで「園の紹介」「沿革」「研究」「刊行物」「園児募集関連」「マップ」「メール」の各フレームで構成されている。日常の保育場面・行事あるいは幼児教育研究会の研究発表・ビデオフォーラムの場面等について、多角的に写真を媒体として鮮明に伝えるための創意工夫が成されている。また、幼児教育の恒常性及び時代性を反映した今日的課題解決の方略等に関する思索や実践を広く発信し、社会に貢献する奉仕幼稚園の機能を十分に果たしている。

## 評価項目9 保護者・地域住民との連携

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点9 保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果はどうなっているか

年長児保護者対象の幼稚園評価のほか、オープンスクール参加者対象及び参観者・来園者を対象にアンケート調査を実施している（資料9-①，資料9-②）。集計結果の概観からは総じて高い肯定的な評価が得られている。殊に優れた点として、各アンケート結果については、精査な結果報告書を作成し、保護者に対しては、園長が「附属幼稚園の現状と課題 -アンケート結果をふまえて-」と題する講話を通して理解と協力を得ており、例年、好評である。

## 評価項目10 子育て支援

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点10 保護者の実情や要望による幼稚園の子育て支援活動が実施できているか

従来から、保護者相互の交流を促進する機会や場の提供、保育参加・保育参観・子育て情報の提供・教育相談の実施・スクールカウンセリング・施設の開放等の子育て支援活動は、みどり会研修活動の一環として積極的に展開されている。特に優れた点として、1) 保護者が中心となって運営する「夏期保育」、2) 通常の教育課程での保育終了後に教職員及び保護者有志によって、サポートを必要とする幼児を16時まで保育する「あいあいサポート」、3) 19時30分から有職の保護者等も自由に集って情報交換等を行うことを可能とする場の提供として、“夜”“寄る”“依る”“拠る”等からネーミングされた「よるトーク」の開催など新規の企画を重ねて、保護者との連携の緊密化を精力的に図っていることである。

## 評価項目11 教育環境整備

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「B 達成されている」と判断する。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点11 設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のための整備はできているか

安全点検によるチェック機能はよく働いており、施設・設備として不備な点はすぐに設置者との連携が取られ、附属学校チーム及び大学施設課の手厚い支援で、教育環境が常に美しく整備されている。具体的には営繕工事要求書（資料11-①）が作成され、大学施設課と連絡調整をして、計画的な営繕工事を実施を要望がなされ、優先的に改善される必要のある箇所（排水槽ポンプ取替・排水管清掃等及び散水用給水管分岐・散水装置取付工事）が着工された。ただし整備の実現については設置者側の予算の問題もあり、クリアしなければならない課題も残る。

## 評価項目 1 2 教育実習

【評価結果】 以下の内容を根拠としてし、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 1 2 専門性や実践力を養う教育実習の実施ができていますか

教育実習については資料12-①に記載されているように、十分な教育的配慮をもった計画に基づいて実施されている。さらに実習生の専門性や実践力が実習によってどの程度身についたのかについても自己評価基準が明確に示され(資料12-①)、実習の成果を確認できる体制になっている。今年度の実地教育も従来通り、幼稚園における幼児との直接的な関わりの過程を通して、教員となるための実践上の基礎的な能力や態度を養うことを目的として実施された。

## 評価項目 1 3 センター的役割

【評価結果】 以下の内容を根拠として、4段階評価中の「A 十分達成されている」と判断された。

(評価結果の根拠・理由)

### 観点 1 3 幼児教育関係者への研修支援及び教員の派遣はできていますか

今年度の具体的な研修支援、教員派遣、研修会会場提供としては、全幼研徳島支部の事務局を本園におき支部の研修を企画運営(学習会、総会、理事会)、教育講演会の開催、教員の県内外研修会への講演講師の派遣(阿波市幼教研・板野郡幼研・共同園内研など)、合同研究会の開催など、幼稚園教育についてや教育の先端的な情報を県内外に広める役割を十分果たしていると判断される。

## 参考

### I 学校の現況及び目的

#### 1 現況

- (1) 学校名 鳴門教育大学附属幼稚園
- (2) 所在地 徳島市南前川町2丁目11番地の1
- (3) 学級等の構成  
3歳児1学級, 4歳児2学級, 5歳児2学級  
保育課程 2年保育, 3年保育
- (4) 幼児数及び教員数(平成22年5月1日)  
幼児数144人 教員数8人(正規教員)

#### 2 目的

##### (1)目的・使命

本園の目的は、附属幼稚園園則第1条において「義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長する」と定めるとともに、同条第2項では「幼児期の教育に関する各般の問題につき、保護者及び地域住民その他関係者からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言を行うなど、家庭及び地域における幼児期の教育の支援に努める」と定めている。

また、園則第1条には「鳴門教育大学における幼児の保育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には教員養成大学の附属幼稚園として、次のような使命をもった幼稚園でもある。

- ① 大学と一体となって、教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究幼稚園としての使命
- ② 地域の教育課題の解明、参観者への指導・助言、文部科学省・県教委・地教委等からの要請による教員派遣など、教育界の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

##### (2)教育目標

本園は、園則第1条に示されている幼稚園教育の目的の達成のため、次のような教育目標を掲げている。

- ① 自主・自立・創造・感謝の精神の芽生えを養うこと。
- ② 健康でたくましい心身を養うこと。
- ③ それぞれのよさや違いを認め、育ち合う感性を養うこと。
- ④ 身近な環境に対する興味や思考力の芽生えを養うこと。
- ⑤ 喜んで話したり聞いたりする態度や言葉に対する感覚を養うこと。
- ⑥ 創作的表現に対する興味や豊かな感性を養うこと。

### (3)めざす子ども像

本園は、教育目標に基づき、次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

- たくましい子ども
- しなやかな子ども
- 育ちあう子ども

### (4)平成22年度重点目標

鳴門教育大学・附属学校との連携を強化し、中期目標・中期計画・本年度計画等の実現に努めながら、教育目標の具現化を図る。

- ① 幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた幼稚園教育の具現化に取り組む。
- ② 教育の質的向上を図る「遊誘財」研究を推進する。
- ③ 専門性や実践力を養う実地教育の充実に取り組む
- ④ 地域の幼児教育のセンター的役割を果たす。
- ⑤ 園務の能率化や教職員の勤務の適正化を図る。

### (5)評価項目

- ① 教育課程・指導
  - ・年間の指導計画や週案などの作成の状況
- ② 保健管理
  - ・保健計画の改定の状況
- ③ 安全管理
  - ・安全点検や教職員の安全対応能力の向上を図るための取り組み状況
- ④ 特別支援教育
  - ・家庭との連携状況
- ⑤ 組織運営
  - ・園務分掌が適切に機能するなど、明確な運営・責任体制の整備の状況
- ⑥ 研修（資質向上の取組）
  - ・園内研修や園外研修の実施及び参加の状況
- ⑦ 教育目標・学校評価
  - ・学校関係者評価実施及び運用の状況
- ⑧ 情報提供
  - ・情報提供の活用の状況
- ⑨ 保護者、地域住民との連携
  - ・保護者・参観者等を対象とするアンケートの結果
- ⑩ 子育て支援
  - ・保護者の実情や要望による幼稚園の子育ての支援活動の実施状況
- ⑪ 教育環境整備
  - ・設置者と連携した施設設備の安全・維持管理のため整備の状況
- ⑫ 教育実習
  - ・専門性や実践力を養う教育実習の実施の状況

⑬ センターの役割

- ・ 幼児教育関係者への研修支援，教員派遣等の状況